

研究・調査報告書

報告書番号	担当
278	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Relationship between patterns of alcohol use and negative alcohol-related outcomes among U.S. Air Force recruits. 米国空軍新入隊員における飲酒パターンとアルコール関連の悪影響との関連	
執筆者	
Taylor JE, Haddock K, Poston WS, Talcott WG.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Mil Med. 2007 Apr;172(4):379-82.	
キーワード	
米国空軍、飲酒、大量飲酒、アルコール関連問題、未成年飲酒	
要 旨	
<p>研究の概要：</p> <p>飲酒が職場での業務に与える悪影響は、米国軍の募集・採用・訓練などにかかるコストを考えると、大変深刻な問題である。しかしながら、新規採用隊員の潜在的アルコール関連問題についてはほとんど明らかにされていない。そこで、米国空軍で新規採用された 37858 名におけるアルコール関連問題について調査を行った。</p> <p>結果：</p> <p>入隊時平均年齢は 21 歳未満であるにもかかわらず、軍の基礎訓練より前に飲酒していたものが 78%、大量飲酒していたものが 49% に及んだ。飲酒歴のある新入隊員の多くがアルコールによる悪影響を報告していた。95% を超える飲酒者が飲酒の結果、本人あるいは関係者の傷害があり、親族・友人・医師・その他の医療職が飲酒状況を問題視していた。傷害以外の飲酒関連問題は、飲酒者の約 4 分の 1 から報告されていた。大量飲酒者にはより多くの飲酒関連悪影響事例があり、その内容は、午前中の飲酒、飲酒中断不能、周囲の関係者の懸念、一時的な記憶欠落、喧嘩、傷害の加害者あるいは被害者、飲酒についての罪悪感、節酒の意思などであった。</p> <p>まとめ：</p> <p>本調査の結果によると、新入隊員の入隊時基礎訓練以前のアルコール関連問題は高頻度にみられ、入隊後に問題を起こすかどうかのスクリーニングを行うのが有益かもしれないと考えられる。</p>	